

**平成19年9月12日**

**安倍内閣総理大臣記者会見 総理の動き[ビデオ版]**

本日、総理の職を辞すべきと決意をいたしました。7月29日、参議院の選挙の結果が出たわけでありますが、大変厳しい結果でございました。しかし、厳しい結果を受けて、この改革を止めてはならない。また、戦後レジームからの脱却、その方向性を変えてはならないとの決意で続投を決意したわけであります。今日まで全力で取り組んできたところであります。

そして、また、先般シドニーにおきまして、テロとの闘い、国際社会から期待されているこの活動を、そして高い評価をされているこの活動を中断することがあってはならない、何としても継続をしていかなければならない、このように申し上げました。

国際社会への貢献、これは私が申し上げている、主張する外交の中核でございます。この政策は何としてもやり遂げていく責任が私にはある。この思いの中で、私は中断しないために全力を尽くしていく。職を賭していくとお話をいたしました。そして、私は職に決してしがみつくものでもないと申し上げたわけであります。そして、そのためには、あらゆる努力をしなければいけない。環境づくりについても努力をしなければいけない。一身を投げ打つ覚悟で全力で努力すべきだと考えてまいりました。

本日、小沢党首に党首会談を申し入れ、私の率直な思いと考えを伝えようと、残念ながら党首会談については、実質的に断られてしまったわけであります。先般、小沢代表は民意を受けていないと、このような批判もしたわけでございますが、大変残念でございました。

今後、このテロとの闘いを継続させる上において、私はどうすべきか。むしろこれは局面を転換しなければならぬ。新たな総理の下でテロとの闘いを継続していく、それを目指すべきではないだろうか。

来る国連総会にも新しい総理が行くことが、むしろ局面を変えていくためにはいいのではないかと。また、改革を進めていく、その決意で続投し、そして内閣改造を行ったわけでございますが、今の状況で、なかなか国民の支持、信頼の上において力強く政策を前に進めていくことは困難な状況である。ここは自らがけじめをつけることによって局面を打開しなければいけない、そう判断するに至ったわけでございます。

先ほど党の5役に対しまして、私の考え、決意をお伝えをいたしました。そしてこの上は、政治の空白を生まないように、なるべく早く次の総裁を決めてもらいたい。本日からその作業に入ってもらいたいと指示をいたしました。

私といたしましても、私自身の決断が先に延びることによって、国会において混乱が大きくなる。その判断から、決断はなるべく早く行わなければならない。そう判断したところでございます。

私からは以上であります。

【質疑応答】

(質問)

総理、決断を早くというふうにおっしゃいましたが、参院選で大敗を喫したわけですから。その直後に辞めるべきだという声もありましたが、なぜ、内閣改造も終え、所信も終えられた今なのか。それをいつ、最終的に決断されたのか、お聞かせいただけますか。

(安倍総理)

参議院選挙は、大変厳しい選挙の結果でありました。しかし、あの中で、やはり反省すべきは反省しながら、しかし今、進めているこの改革を止めてはならないとの思いで、そして、私が進めている国づくりは何としても進めなければならぬとの思いで続投を決意し、そして、内閣の改造を行い、所信も思うところを述べさせていただきました。

しかし、テロとの闘いを継続していくということは極めて重要なことであり、そして、それはまた私の約束でもありますし、国際公約でもございます。それを果たしていく上においては、むしろ、ここは私が辞することによって局面を転換した方が、その方がむしろよいだろうと判断をいたしました。

(質問)

総理がお辞めになることが、どのようにして自衛隊活動の継続につながっていくというふうにお考えなんでしょうか。

(安倍総理)

私は、何としても改革は進めなければいけないとの思いで今日まで全力を尽くしてまいりましたが、残念ながら、私が総理であるということによって野党の党首との話し合いも難しい状況が生まれています。そして党において、やはり今の状況の中においては、新しいエネルギーを生み出して、そのエネルギーによって状況を打開し、そして、場合によっては新法を新しいリーダーの下で押し進めていくことの方がいいのではないかと考えました。

(質問)

総理は先ほど、国際公約とおっしゃいましたが、自ら国際公約としながら、それを途中で投げ出すというのはやはり無責任という批判も免れないと思うんですが、こういった批判に対してはどのようにお答えいただけますでしょうか。

(安倍総理)

勿論、私もそのために全力を尽くさなければならないと考えておりました。その中において、むしろ、この約束を果たしていく上においてどういう環境をつくっていくかということも考えていたわけでありまして、その環境をつくる上においては、私が職を辞した方がそうした環境ができるのではないだろうか。私がいることによって、残念ながら、成立することにマイナスになっているという判断をいたしました。

(質問)

政治的な空白をつくらない方がいいとおっしゃいましたが、国連総会、後2週間後くらいには来ますけれども、それまでに新しい総裁を選ぶということなんですか。総裁の選び方、それから後継についてどうお考えになっているか。後継の方にはどのような条件が求められるか。これについてお聞かせください。

(安倍総理)

今日は私はまだそうした決断をしたばかりでございます。まだ、日程的なことを決めているわけではございませんが、なるべく早い段階で後継の総裁を決めてもらいたいと思っています。後継の総裁について私がとやかく申し上げることは適切ではないと思いますが、いずれにせよ、新しいリーダーとして、与党を率いて力強く政策を前に進めていっていただきたいと思いません。

(質問)

総理が辞任されることによって、総理が進めようしてきた戦後レジームからの脱却などの諸政策が後退してしまう、そういうふうなことはお考えになられなかったでしょうか。

(安倍総理)

私が続投するに当たりまして、新しい国づくりを進めていかなければいけない。その中におきましては、戦後原点にさかのぼって、見直しをしていくという戦後レジームからの脱却も果たしていかなければいけない。

その思いでございます。

今まで教育基本法の改正や公務員制度の改革等々の、言わば戦後のでき上がった仕組みを変えていく。そういう挑戦をしてまいりましたし、成果も上げてきたと思います。しかし、現在の状況においては、新たな局面の打開を図って、新しいエネルギーで前へ進めていかなければ、私のそうした政策の実現も難しいという状況であろうと判断をいたしました。この方向については、是非その方向で進んでいってほしいと思っています。

(質問)

総理は先ほど辞任の理由について、テロとの闘いというものを第一に挙げておられました。しかし、総理の職責というのは外交面でなくて、国民生活すべてを背負っているという面があると思います。そういう状況なのに、月曜日に続投を決意される所信表明を演説され、そして今日は各党の代表の質問を受けるというその直前に総理の職を辞されるというのは、これは国民の目から見ると、逃げているのではないかというふうに思われても仕方ないかと思います。その辺についての責任というのをどのようにお考えでしょうか。

(安倍総理)

総理の職責は大変重たいものがあると考えています。そして、私も所信において思うところを述べさせていただきました。しかし、その述べたことを実行していくという責任が私にはあるわけですが、なかなか困難な状況の中において、それを果たしていくことができないのであれば、それは政治的な混乱を最小限にするという観点から、なるべく早く判断すべきだという結論に至りました。

(質問)

総理が政策を前に進めにくいという状況は参院選で大敗した後も一貫して変わっていないと思うんですが、どうして所信表明を終えた後に辞意を表明されるという決断をされたのかという最大の理由と、最終的にそれを御決断されたタイミングがいつかというのをもう一度教えていただきたいと思います。

(安倍総理)

総理としては、常に職責を果たしていかなければいけないということは、日々考えているわけでございます。

そして私が、ここは職を辞することによって、局面を変えていかなければいけないと判断をいたしましたのは、今日、残念ながら党首会談も実現をしないという状況の中で、私がお約束をしたことができない、むしろ私が残ることが障害になっていると、こう判断したからであります。

(質問)

先ほど、総理が政策を実行するのに非常に困難な状況になったとおっしゃってございましたけれども、そういう困難な状況に至ってしまった原因などについて、どう分析されているか。また、そこに至らしめた自らの責任について、反省点などがありましたら最後に教えてください。

(安倍総理)

勿論、反省点は多々ございます。前の内閣、また新しい内閣において、安倍内閣として、国民の信頼を得ることができなかった。これは私の責任であろうと思います。それを原動力に政策を前に進めていくということが、残念ながらできなかったということでもあります。

(質問)

党首会談を理由に挙げられたわけですが、今後国会の流れの中で、党首会談がもう一度できるということは見通しはなかったんでしょうか。

また、それは党首が代わられれば、党首会談ができるという見通しがおありなんでしょうか。

(安倍総理)

私が民意を受けていないということが、理由の1つとして挙がっているわけでございます。この選挙結果は、やはり大きなものがあって、勿論その上に立って私は続投を決意をしたわけでございますが、新しい自民党のリーダーとの間において、虚心坦懐に率直な党首同士の話し合いがなされると、私はそのように期待をしています。

(質問)

総理が強調されているテロとの闘いを継続するためには、衆議院の再議決をもってすれば、党首討論がなくても突破できたという見立てが我々の間では主流だと思うんですが、それでも党首会談ができないということでお辞めになるということだと、総理のことをたくさんの方が支持をして総理になられたのに、説明としては不十分だと思うんですが、本当の心境、あるいは何がその決断に至ったのかを、総理として最後に是非お伺いしたいと思います。

(安倍総理)

私は、言わばこのテロとの闘いにおいては、中断されてもならないと、こう考えて、先般シドニーで職を賭すという話をしたわけでございます。

新法で継続を図っていくという考え方も党にあるわけですが、日程的な関係で、新法ですと一時的に中断という可能性は高いわけございまして、そうであるならば、事実上そういう状況が出てくるわけでありまして、そう判断せざるを得ないと考えました。

そこで、そのときに判断するよりも、むしろ今、判断した方が党が新たなスタートをする上においては、むしろその方がいいだろうと。国民の皆様に対しましても、混乱を招かない上においては、なるべく早い判断の方がよかったと、決断がいいだろうというふうに判断をいたしました。